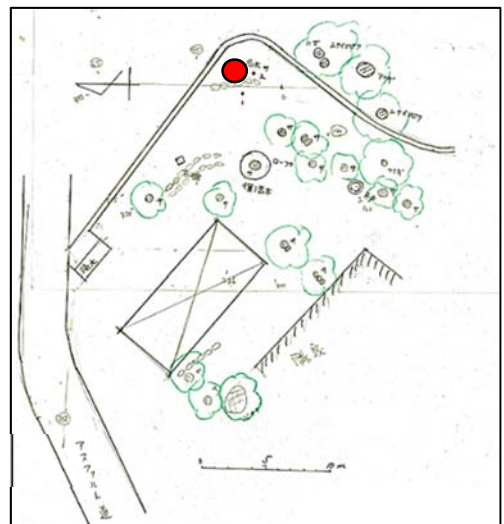


真喜屋のサガリバナ集落(舞香花 モーカバナ)



樹種名	サガリバナ	科名	サガリバナ科	方言名	キーフジ	学名	<i>Barringtonia racemosa(L.) Spreng.</i>					
形状・寸法	樹高 7.6 m	胸高周囲 - m	根本周囲 4.8 m	樹幹占有面積 61 m ²								
	枝下高 - m	枝張 東 3.7 m	西 4.2 m	南 4.3 m	北 5.5 m	最大樹冠幅 9.8 m						
通称	真喜屋のサガリバナ		樹齢 150 年(推定)	所有者	1 国 2 県 ③ 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明							
所在地	名護市字真喜屋152.153.153-1.156に囲まれる里道			状況	1 単木 ② 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	① 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)				気象条件 (最寄りのアメダスデータ)	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 ⑤ 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし			平均気温(°C)		16.0	16.1	18.6	21.8	24.5	28.4	
	周囲の状況	① 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ()			降水量(mm)	23.0	34.5	54.5	107.5	218.0	95.5	
土地傾斜		① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			地点:名護	平均風速	3.9	3.4	4	3.6	3.3	4.2
	土壌	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ()				2015年	風向	NW	S	SSW	SSW	S
基岩・母材					年		月	7月	8月	9月	10月	11月
	地形	1 山地 2 丘陵地 ③ 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪 窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他				平均気温(°C)	28.8	28.6	27.5	24.8	23.2	19.4
土性		1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 ③ 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない			降水量(mm)		471.0	270.0	39.5	80.5	95.0	106.0
	根元及び周囲の植生	草本 1 密生 ② 疎 3 なし 低木 1 密生 ② 疎 3 なし				平均風速	4.9	3.8	3	3.7	3.4	3.9
管理状況					風向		ESE	S	SE	NNE	N	S
	過去の治療歴と内容					年	年平均気温	23.1 °C		最高気温	33.9 °C	
故事来歴					年		年降水量	1595 mm		最低気温	7.7 °C	
	視認性					潮風の影響	① なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)					
特記事項					日照条件		1 良い 2 普通 ③ やや不良 4 不良					
	特記事項					周辺樹木の影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある ④ かなりある 5 深刻((状況))					
特記事項					周辺根元の状況		① 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし					
	特記事項					周辺樹木との関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている ③ かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている					

管理状況	1 柵 a 有 ② 無 (有の場合の高さ m、材質) 柵内面積 (m ²) 設置年 2 支柱 a 有 ② 無 3 剪定 a 強 b 弱 ③ 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類) 5 薬剤散布 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類) 6 解説板 ③ a 有 b 無 7 避雷針 a 有 ② 無 8 定期的な草刈・掃除 ③ a 有 b 無 9 その他	
過去の治療歴と内容		
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 ② 無 5 いわれの内容 6 不明	
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える ③ 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由)	
特記事項	1 動物生息 a 有 ② 無 (有の場合動物の種類) 2 着生植物 ③ a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオタニワタリ) 3 見学・参観者 ③ a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット	

地上部の衰退度判定（認定番号114）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.09

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8～1.6未満 やや不良	1.6～2.4未満 不良	2.4～3.2未満 著しく不良

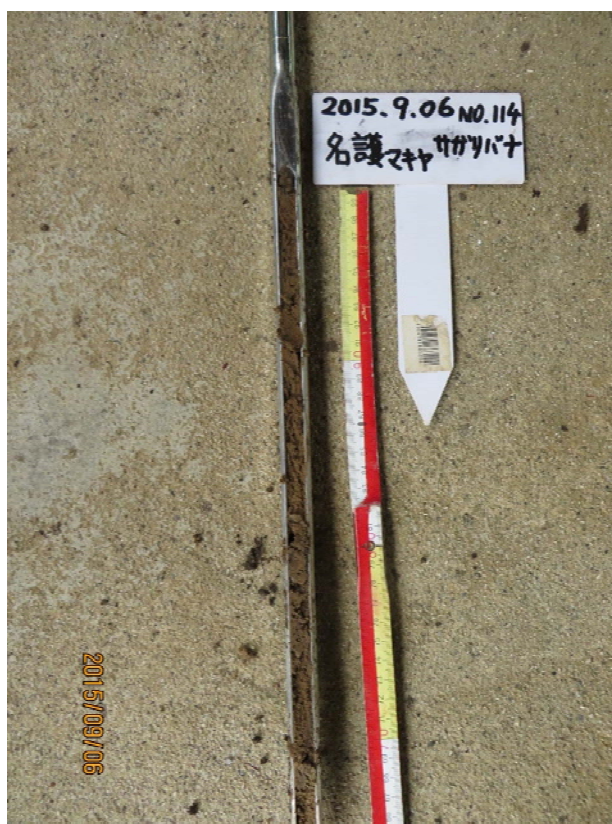
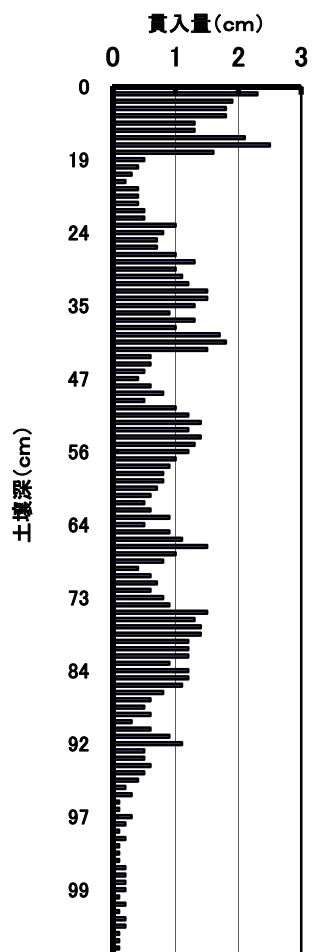
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ	○			
中・小枝落下	○			
幹の傾斜の増大	○			
その他				

土壤調査結果（認定番号 114）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	10YR3/2	0-3	—	埴壤土	7.9	1.6
II	10YR4/3	3-9	—	埴壤土		
III	10YR4/4	9-30	—	埴壤土		
IV	10YR4/4~6	30-	—	埴壤土		

土壤貫入量結果



真喜屋のサガリバナ

部位	所見	対応
土壌	・土壌の深さは 1m 以上ある。土性は埴壌土で 10cm～30cm に粘土層を挟む。全層湿潤である。pH: 7.9.EC: 1.6(dS/m)。	・無し
根	・根はよく発達し、鋼棒貫入異常も認められない。	・積極的な改善処置は要しないが、立ち入り制限など、根の保護対策を検討することが必要と考える。
幹	・高さ 0.8m から折損している。内部は根元まで空洞となり、不定根が発達する。	・不定根の保護・育成を検討する。
	・根際～折損部下方から十数本の萌芽枝が発生している。発生基部の支持力が懸念される。	・将来的に枝を支える支柱の設置を検討する。
	・空洞内部にシロアリの生活痕が見られる。シロアリが折損の原因と見られる。	・シロアリの発生について定期的な観察の実施を検討する。 ・シロアリが発生した場合駆除を検討する。
枝	・枝の伸長は良好であるが、基部に荷重がかかり過ぎないよう、注意する。	・早期に残すべき枝を決定し、不要枝の剪定の実施を検討する。 ・残存枝の伸長経過を観察して基部への荷重が懸念される場合は枝を切り詰めることも検討する。 ・枝を伸ばすには支柱設置が不可欠と考える。
葉	・葉の量、大きさとも正常である。	・無し。
備考	・2002 年の台風で幹下部から折損したとのこと。	

